

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成28年2月12日
【四半期会計期間】	第57期第3四半期(自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日)
【会社名】	東京貴宝株式会社
【英訳名】	Tokyo Kiho Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 中 川 千 秋
【本店の所在の場所】	東京都台東区東上野1丁目26番2号
【電話番号】	03(3834)6261(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 政 木 喜 仁
【最寄りの連絡場所】	東京都台東区東上野1丁目26番2号
【電話番号】	03(3834)6261(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 政 木 喜 仁
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第56期 第3四半期 連結累計期間	第57期 第3四半期 連結累計期間	第56期
会計期間	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日
売上高 (千円)	4,600,617	4,325,399	6,036,167
経常利益 (千円)	114,770	28,950	145,754
親会社株主に帰属する 四半期（当期）純利益 (千円)	107,567	15,568	165,505
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	110,318	10,851	184,810
純資産額 (千円)	3,263,572	3,313,537	3,338,064
総資産額 (千円)	7,963,855	7,755,342	7,771,147
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	24.32	3.52	37.43
潜在株式調整後1株当たり 四半期（当期）純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	41.0	42.7	43.0

回次	第56期 第3四半期 連結会計期間	第57期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	4.40	1.93

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期（当期）純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 4 「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号 平成25年9月13日）等を適用し、第1四半期連結累計期間より、「四半期（当期）純利益」を「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」としております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在しておりません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、政府の景気対策により雇用や所得環境が改善され企業収益も緩やかに改善している一方、個人消費は停滞し足踏み状態となっております。また、原油価格の下落や中国等新興国経済の減速により依然、先行き不透明な状況が続いております。

宝飾業界においても、都心部ではインバウンド消費が好調なところがあるものの景気回復とは言えない状況であります。

このような状況にあって、当社グループは従来通り催事関係を営業活動の中心に取引先とともに集客増を図り、販売促進活動にも積極的に取り組んで参りましたが、冷え込んだ消費マインドを補うまでには至らず売上高は前年を下回る結果となりました。売上総利益においては、粗利率の改善により前年を上回ることが出来ましたが、第2四半期に計上した海外子会社の貸倒引当金の影響等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益は前期を大きく下回ることとなりました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は4,325百万円（前年同四半期比6.0%減）、営業利益は46百万円（前年同四半期比40.5%減）、経常利益は28百万円（前年同四半期比74.8%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は15百万円（前年同四半期比85.5%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ15百万円（0.2%）減少の7,755百万円となりました。主な変動は、商品の増加159百万円、現金及び預金の減少119百万円等であります。

当第3四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比べ8百万円（0.2%）増加の4,441百万円となりました。主な変動は、短期借入金の増加31百万円、社債の減少30百万円等であります。

当第3四半期連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比べ24百万円（0.7%）減少の3,313百万円となりました。主な変動は、利益剰余金の減少19百万円等であります。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。

(4) 経営成績に重要な影響を与える要因及び経営戦略の現状と見通し

当社グループを取り巻く事業環境は、一部インバウンド消費の恩恵を受けるものの、若年層を中心とした節約志向の高まりや、海外の有名ブランドの台頭から国内ジュエリー業界は依然として厳しい状況が続いております。

第4四半期においても、中国等新興国経済の減速により、企業業績や個人消費に影響が懸念され、先行き不透明な状況です。

このような状況で、当社グループは営業活動の中心に催事販売をすえて営業活動を強化し、取引先と一丸となり集客増に取り組んでおります。売上高において、前期実績を下回る予想ですが、催事販売の売上は堅調に推移し収益性を重視した戦略は着実に成果を上げております。しかし、海外子会社において回収懸念先が発生したことにより営業利益以下の段階利益は、前期を大幅に下回る見通しとなります。

(5) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社経営陣は、わが国経済や業界を取り巻く経営環境の厳しさを十分認識し、売上高よりも利益重視の販売戦略、商品力の強化、在庫回転率の向上、経費削減等により収益力の向上を図っていくという方針は、今後も堅持して参ります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,110,000
計	13,110,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成27年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成28年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,478,560	4,478,560	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	完全議決権株式であり、権利 内容に何ら限定のない当社に おける標準となる株式。単元 株式数は1,000株であります。
計	4,478,560	4,478,560	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成27年12月31日	—	4,478,560	—	636,606	—	504,033

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成27年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 56,000	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,413,000	4,413	同上
単元未満株式	普通株式 9,560	—	1単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	4,478,560	—	—
総株主の議決権	—	4,413	—

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が8,000株(議決権8個)含まれております。
- 2 「単元未満株式」の欄の普通株式には、当社所有の単元未満自己株式235株が含まれております。
- 3 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成27年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

② 【自己株式等】

平成27年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東京貴宝株式会社	東京都台東区東上野 1丁目26-2	56,000	—	56,000	1.25
計	—	56,000	—	56,000	1.25

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、優成監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	951,393	831,556
受取手形及び売掛金	1,801,093	※ 1,789,088
商品	2,863,119	3,023,062
その他	87,396	87,904
貸倒引当金	△65,532	△98,612
流動資産合計	5,637,470	5,633,000
固定資産		
有形固定資産	401,750	399,105
無形固定資産	2,097	2,029
投資その他の資産		
投資不動産（純額）	1,540,731	1,530,274
その他	243,833	245,661
貸倒引当金	△54,735	△54,728
投資その他の資産合計	1,729,830	1,721,207
固定資産合計	2,133,677	2,122,342
資産合計	7,771,147	7,755,342
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	328,579	316,006
短期借入金	2,319,312	2,351,016
未払法人税等	8,117	8,791
返品調整引当金	1,837	2,005
その他	149,707	175,787
流動負債合計	2,807,553	2,853,606
固定負債		
社債	90,000	60,000
長期借入金	1,335,717	1,322,308
退職給付に係る負債	50,374	59,626
その他	149,438	146,264
固定負債合計	1,625,529	1,588,198
負債合計	4,433,083	4,441,804
純資産の部		
株主資本		
資本金	636,606	636,606
資本剰余金	504,033	504,033
利益剰余金	2,169,384	2,149,573
自己株式	△27,588	△27,588
株主資本合計	3,282,435	3,262,624
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	33,310	29,043
為替換算調整勘定	22,318	21,869
その他の包括利益累計額合計	55,629	50,912
純資産合計	3,338,064	3,313,537
負債純資産合計	7,771,147	7,755,342

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
売上高	4,600,617	4,325,399
売上原価	3,479,660	3,193,761
売上総利益	1,120,956	1,131,638
返品調整引当金戻入額	2,453	1,837
返品調整引当金繰入額	2,064	2,005
差引売上総利益	1,121,345	1,131,470
販売費及び一般管理費		
販売促進費	332,451	320,888
旅費及び交通費	124,816	124,924
役員報酬	48,765	49,022
従業員給料	274,752	278,177
法定福利費	51,179	53,162
退職給付費用	7,823	15,379
貸倒引当金繰入額	△18,978	33,073
その他	221,671	209,884
販売費及び一般管理費合計	1,042,481	1,084,512
営業利益	78,863	46,958
営業外収益		
受取利息	129	177
受取配当金	3,968	4,260
不動産賃貸料	125,348	117,594
為替差益	37,397	-
その他	1,966	7,878
営業外収益合計	168,811	129,911
営業外費用		
支払利息	45,629	42,111
コミットメントフィー	15,695	32,869
不動産賃貸原価	66,570	67,493
その他	5,009	5,445
営業外費用合計	132,904	147,919
経常利益	114,770	28,950
特別利益		
投資不動産売却益	230	-
特別利益合計	230	-
特別損失		
固定資産除却損	-	600
特別損失合計	-	600
税金等調整前四半期純利益	115,000	28,349
法人税等	7,433	12,781
四半期純利益	107,567	15,568
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	107,567	15,568

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益	107,567	15,568
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△962	△4,267
為替換算調整勘定	3,713	△449
その他の包括利益合計	2,751	△4,717
四半期包括利益	110,318	10,851
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	110,318	10,851
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

「企業結合に関する会計基準」（企業会計基準第21号平成25年9月13日）、「連結財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第22号平成25年9月13日）及び「事業分離等に関する会計基準」（企業会計基準第7号平成25年9月13日）等を第1四半期連結会計期間から適用し、四半期純利益等の表示の変更を行っております。当該表示の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
税金費用の計算	当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(財政状態、経営成績又はキャッシュ・フローの状況に関する事項で、企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の判断に影響を与えると認められる重要なもの)

該当事項はありません。

(追加情報)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

※ 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、当第3四半期連結会計期間の末日が金融機関の休日でしたが、満期日に決済が行われたものとして処理しています。

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
受取手形	一千円	99,399千円

(四半期連結損益計算書関係)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
減価償却費	33,390千円	32,619千円

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	17,689	4	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金
平成26年11月7日 取締役会	普通株式	17,689	4	平成26年9月30日	平成26年12月8日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年6月25日 定時株主総会	普通株式	17,689	4	平成27年3月31日	平成27年6月26日	利益剰余金
平成27年11月6日 取締役会	普通株式	17,689	4	平成27年9月30日	平成27年12月7日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

当社はジュエリー総合商社として単一の事業分野で営業活動を行っており、また、社内におけるマネジメントにおいても全体を一つの事業としております。従いまして、当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)

当社はジュエリー総合商社として単一の事業分野で営業活動を行っており、また、社内におけるマネジメントにおいても全体を一つの事業としております。従いまして、当該事業以外に事業の種類がないため、該当事項はありません。

(金融商品関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(有価証券関係)

四半期連結財務諸表規則第17条の2の規定に基づき、注記を省略しております。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	24円32銭	3円52銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	107,567	15,568
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	107,567	15,568
普通株式の期中平均株式数(株)	4,422,325	4,422,325

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第57期(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)中間配当について、平成27年11月6日開催の取締役会において、平成27年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

- | | |
|----------------------|------------|
| ① 配当金の総額 | 17,689千円 |
| ② 1株当たりの金額 | 4円00銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 | 平成27年12月7日 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成28年2月10日

東京貴宝株式会社
取締役会 御中

優 成 監 査 法 人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 佐 藤 健 文 ⑩

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中 田 啓 ⑩

指定社員
業務執行社員 公認会計士 大 好 慧 ⑩

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東京貴宝株式会社の平成27年4月1日から平成28年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成27年10月1日から平成27年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成27年4月1日から平成27年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東京貴宝株式会社及び連結子会社の平成27年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。